

特集：地域の情報化に向けたビジネスの展開

地域IT化最前線 電子自治体と地域コミュニティの形成で地方が変貌する!

NEXT▶

愛媛県医師会はP2Pを利用した連携支援システムを確立

愛媛県医師会は、医療機関のパソコン同士でデータ交換を行える情報システムを立ち上げている(図4)。過疎地の診療所からでも、希望する専門分野の医師や特定の設備をもつ病院など、各種情報を容易に検索でき、メールのやりとりもスムーズに行えるというものだ。対象情報は病院の位置やベッド収容数、医師の担当分野、経歴などで、カルテは共有しないが、医療機関の連携を進めることは間違いない。

こちらのシステムで特徴的なのは、ピア-ツー-ピア(P2P)技術を用いていることだ。この技術は、個人のもつコンテンツを、サーバーを介さずにやりとりできるもので、情報保管にかかる負担や危険を分散できるのが特長である。非階層型や脱中央集権を狙う企業やグループに最適だといわれる。愛媛県医師会は、NTT研究所の開発した高性能P2Pプラットフォーム「SIONet(シオネット)」を使い、2002年6月から実用化レベルの実験を実施、成功した。医療機関同士がインターネット・プロトコル仮想専用網で結ばれ、ログイン認証やSSL暗号化が行われているので、セキュリティも万全である。

医療に関しては、医師の得意・不得意や治療方針、病院が所有する検査機器の設備などによって、同じ病気でも治癒率に違いのあることが知られるようになってきた。患者が医療機関や治療方法を主体的に選択したいという要望も高まっている。しかし、そのための情報が、患者側にも、そしておそらく医師側にも、不足しているようである。紹介した2つの事例は、ITの活用により、こういった状況を打開する試みとして、その成果が大いに期待できるものといえるだろう。

図4.愛媛県医師会とNTTの共同実験

